

駒橋発電所落合水路橋

下から見ると、この古いレンガの建築物は普通の橋のように見えますが、実は、1 秒当たり約 25 立方メートルの水を、近くの大月市にある駒橋発電所へ送っている水道橋です。1907 年、駒橋発電所やその他多くの同様の水力発電所がこの地域に建てられました。日露戦争 (1904～05) 中、工業生産のために、国が海外の化石燃料へ依存しているという問題が明らかになり、この依存を減らすことが目的でした。

ここにこんなに多くの発電所が建てられた理由は、この地域が東京に近いこと、また環境が水力発電に特に適していることです。富士山の近くにある、地下の豊かな水源と豊富な雨量に加えて、水の流れが常に高速を保てるよう、地面が理想的な傾斜に傾いています。現在、この橋は 1 世紀以上前の建設当時と同じように存在しています。現在の日本で今なお使われている数少ない建築物の 1 つです。